

2015年度 協豊会関西地区 第2回 会社見学会を実施 ＜ジャパン マリンユナイテッド株式会社 呉事業所 見学＞

2015年度、協豊会関西地区第2回目の会社見学会は、10月21日（水）に広島県呉市にあるジャパン マリンユナイテッド株式会社（以下 JMU）呉事業所を見学しました。

JMU 呉事業所は明治22年の呉鎮守府の開庁から始まり、当時の造船技術の粋を極めた戦艦大和を建造した呉海軍工廠、終戦後は海軍工廠の一部施設を借用し播磨造船所呉船渠→呉造船所→石川島播磨重工業→IHIMU となり、2013年1月にはユニバーサル造船と統合し、JMU へと長い歴史を刻まれています。

当日は会社概要説明を受けた後、最新鋭の14,000個積コンテナ船(L=364m)を建造中のドック(L=510m)を徒歩で見学しました。ドック内では、常に1.5隻分の建造を効率的に行えるようになっており（海側前方で1隻、後方で0.5隻）、また横幅の空きスペースにも船体のブロックを置かれて、ドック全体を無駄なく有効活用しておられました。

栈橋には9月末に進水したばかりである最新鋭の14,000個積コンテナ船が停泊しており、後方からの見学だけでしたが、その大きさには圧倒されました。

船殻工場では船体のカーブを造るため作業の方が、片手にバーナー、片手にホース（水）を持ち、水をかけながら型枠に合うように鉄板をあぶり曲げて行くという、熟練した匠の技を駆使されており、船体のような大きな構造物にも個人の技が生かされている事に驚きました。

現在、戦艦大和を建造したドックは埋め立てられ工場となっていますが、当時、大和を周りから隠す為に建てられた上屋の屋根は「大和の大屋根」と呼ばれそのまま残っており、下から見上げる事が出来て感慨にふける事が出来ました。

JMU 殿に於かれては、絶え間ない性能改善を図っておられ、世界でもトップの技術と品質を維持されている事は、協豊会各社の製品とはスケールが違いますが、同じ「ものづくり」を行っている企業として大変勉強になりました。



＜会社概要説明風景＞



<最新鋭の14,000個積コンテナ船>



<会社見学後の記念撮影>